令和２年度　認定こども園さちよ「関係者評価」

園 名	認定こども園さちよ

基本方針	心身ともにたくましく　心豊かに生きる子どもの育成
めざす子ども像	・　あいさつをする子　　・元気よく外で遊ぶ子　　・進んで活動する子
重点目標	①基本的生活習慣の定着を図り、集団における望ましい態度を育てる。 ②身近な人や自然・地域との関わりを通し、直接体験活動を重視する。 ③園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活を展開する。 ④保護支援に努め、地域の子育て支援拠点として機能させる。
具体的目標	①園児の様々な気づきや心の動きに共感する指導に努める。 ②一人ひとりの居場所作りをし、個に寄り添った支援をする。 ③一人ひとりの特性や発達課題を捉え、特別支援教育を進める。 ④保育のねらいや生活の様子をきめ細かく家庭に伝える。（説明責任を果たす） ⑤園小の連携を推進し、小学校への滑らかな接続を図る。（学びの連続性）

自己評価結果（達成状況）

【A:達成している　B：概ね達成している　C:あまり達成していない　D：達成していない】

評価の観点	評価項目	取り組みの状況	達成状況	改善の方策	こども園関係者評価 関係者評価委員から
園運営	○職員の資質向上 ○組織体制の充実	○研修の充実を図った。 ・ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ研修に計画的に参加した。 ・オンライン研修に参加して、資質向上に努めた。 ○各委員会、幼保部会等で意見を出し合い、園全体で共通理解し、円滑な組織運営に努めた。	B	・保育教諭の資質向上に繋がる研修に積極的に参加し、共有していく。 ・各委員会の取り組みを充実させ、園内研修を行ったり、指導主事や外部講師の実践事例を通して学び合う機会を増やす。	先生達は、子どもを理解しようとしている姿が見られる。今後も研修を積んですぐに対応できる技術を身に付けて欲しい。
教育課程	○教育・保育課程の作成 ○指導計画の作成・反省 ○発達過程に応じた教育・保育 ○環境を通して行う教育・保育	○認定こども園教育・保育要領に示されたねらい、内容を取り入れた編成を行う。 ○一人ひとりを大切にし、発達年齢に応じた保育・教育に取り組んだ。 ○主体的に子ども達が活動できる環境を整えるように努めた。	B	・子どもの姿から、「おもしろそう」「やってみたい」と興味・関心を持ち、主体的に活動できる環境を整え、一人ひとりの学びへと繋げていく。 ・各年齢の発達に応じた保育・教育に取り組み、０歳児から５歳児までの繋がりを大切にする。	コロナ禍で、行事等予定が変わったが、できる事を工夫してもらっている。子どもは予定が変わってもそんなに思っていない。変わった行事を楽しんでいる。前年度評価と変わらず、よい保育が出来ている。
子育て支援	○親子の育ち合いの場としての役割や機能の充実 ・すくすくひろば開設、子育て相談、講座等の開設	○「すくすくひろば」を年９６回実施した。 ・登録児への通信配布と、ＨＰへの通信掲載で啓発した。　・よい子ネット登録により、園の様子も知ってもらうようにした。 ・当園の栄養士による食育講座を行った。 ・保護者の育児ストレス軽減のために寄り添うように努めた。	B	・すくすく広場利用の保護者のみに限らず、園児の保護者に寄り添い、それぞれの状況に合わせた支援が受けられるように園に相談しやすい体制を図る。・通信やよい子ネットで園の教育・保育からの育ちを伝え、家庭の教育力を高めるように努める。	保護者からの要望に対して、園での方針は、分かりやすく具体的に書いた方がよい。園に行くと子ども達がよく挨拶してくれる。子どもがすくすくと育っていると思う。
安全管理 保健管理	○園舎の安全、安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の危機管理能力の向上 ・防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、健康診断、歯科検診の実施	○毎月の安全点検を実施した。 ○毎月避難訓練を実施した。（火事、地震、水害、不審者） ○事故報告書、ヒヤリハット報告書を活用し、事故防止へ繋げた。 ○園児の健康管理に努めた。 ・保健師や医師による園内研修を行い、危機管理に努めた。 ・保健だよりを発行し、感染症対策や健康な生活の仕方を知らせた。 ・毎日の検温表のチェック、手洗い、マスク着用、換気の徹底を行った。	B	・色々な目で安全点検することにより、危険個所を把握していくようにする。 ・毎月の避難訓練計画を見直し、職員の動きをマニュアル化して、危機管理意識を高める。 ・リスクマネジメント、ヒヤリハットの研修会に参加し、職員の危機管理意識を高める。 ・交通安全や感染症対策等、園児の安全、健康意識を高めるように努める。	感染予防をしっかり出来ているので、コロナやインフルエンザの感染者が出なかった。今後も予防対策を行ってほしい。 園で怪我した時は、すぐに病院へ連れて行ってもらったことは有難かった。 園の裏山の大木が危険であるので、所有者を調べて改善していく。
特別支援教育	○一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援計画の作成と実施 ○専門機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	○特別支援コーディネーターを中心に、個々の園児にあった支援の方法を探った。 ○専門機関との連携を図った。 ・支援の必要な園児と一緒に専門機関に出向き支援の方法を探った。 ・面談の中で保護者の思いを聞き取り、小学校や関係機関に繋ぐことで、安心して進級や就学ができるようにした。	B	・計画的な指導内容や指導方法の充実を図る為、研修への参加や巡回相談での指導を共有し、園全体で取り組んでいく。 ・園児の特性や課題について関係機関と情報共有し、適切な連携と支援を進める。 ・小学校や関係機関との打ち合わせを通して、保護者の思いを大切にする。	ぐずって行きたくない日でも、園の外まで迎えに来てもらって助かった。 発達の方で心配したが、一人ひとりに丁寧に関わってもらい本当によくしてもらっている。
家庭・地域　他校種との連携	○信頼される園作り ・情報の発信・受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○地域とのつながり	○個人情報に留意しながら、情報発信に努めた。 ・一人ひとりの園児に対し、みとったことを連絡帳で知らせた。 ・園だより・クラスだより・給食献立予定表・保健だより等で、取組の意図や様子を発信した。 ・ＨＰやよい子ネットを活用して、園の取組や子どもの様子を具体的に知らせた。 ○参観日・給食試食会（４歳児）を開催した。 ・具体的な子どもの姿を通して、園の教育・保育、給食への理解をしてもらう機会とした。 ○小学校交流 ・計画的に相互の学びを積み重ねていけるように交流を行った。 ・園小合同の打ち合わせの会議を実施した。	B	・信頼される園作りの為に、園の教育・保育を発信して理解を得るように努める。 また、保護者の意見にも耳を傾け、家庭と園との相互理解を図る。 ・小学校との園小連絡会を持ち、計画を立てて交流を行う。その後、反省会を持ち来年度へ繋げていく。 ・地域の中のこども園であることを受け止め、繋がりを通して、子ども達にも地域の方々の温かさを伝え継承していく。また、感謝の気持ちを言葉で表現し、地元を愛する「さちよっ子」を育成していく。	地域柄、協力的なので子どもも良い方向に育っている。小学校になると座って勉強するのがしんどい子もいるので、スムーズに移行できるように園でも気を付ける。 和式トイレに慣れさせて欲しいという意見では、学校見学時に和式トイレを見たり、使用したりしている。園だけに任せず、家庭でも施設を利用する機会を持ったり、工夫する必要がある。送迎していない保護者は、担任と話す機会が少なく、園での様子が分かりにくいという意見もあるが、４，５歳児は、ある程度子どもから伝達する力をつけるようにしている。クラス便りやよい子ネットでの情報発信に努めているので、そこから、親子の会話に繋げて欲しい。

園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

・園児の安全・安心を第一に保育・教育していく。

・園小交流や職員間の連携を密にし、学びの連続性を意識した接続をめざす。

・情報発信を充実させ、園の保育・教育の理解を得るよう努める。

令和3年3月31日

園名　認定こども園さちよ

園長　　芦田　淳子　　印

こども園関係者評価のまとめ

園児の安全が第一であるので、今後も感染予防に取り組むとともに危険箇所は改善していくようにする。発達段階に応じた保育を展開するとともに小学校と連携を取りながらスムーズに移行できるようにしていく。子どもが嫌がらずに園に行ってくれる姿を見て充実している様子が伺える。職員が保護者に気を遣っているように思う。先生のストレスやケアが必要でないか？